

## 世帯属性別の状況

### 1 年間収入五分位階級別の状況

#### (1) 貯蓄現在高の年間収入階級間格差は3.3倍

勤労者世帯について年間収入五分位階級別に貯蓄現在高をみると、年間収入が高くなるに従って貯蓄現在高も多くなっている。年間収入が最も低い第1階級が678万円、年間収入が最も高い第5階級が2225万円となっており、貯蓄現在高の年間収入階級間格差（第1階級に対する第5階級の貯蓄現在高の比）は3.3倍となっている。

貯蓄の種類別割合をみると、通貨性預貯金の割合は第1階級が17.7%と最も高く、第5階級が14.7%と最も低くなっている。定期性預貯金の割合は第1階級から第5階級までは年間収入が高くなるに従って低くなっており、第1階級が46.0%、第2階級が43.2%、第3階級が40.8%となっている。有価証券の割合は年間収入が高い階級ほどおおむね高くなっており、第1階級が3.8%、第5階級が10.5%となっている。

年間収入五分位階級別に負債現在高をみると、年間収入が高くなるに従って負債現在高も多くなっている。年間収入が最も低い第1階級が239万円、年間収入が最も高い第5階級が833万円となっており、負債現在高の年間収入階級間格差（ / ）は3.5倍となっている。

負債の種類別割合をみると、住宅・土地のための負債の割合は年間収入が高くなるに従って高く、第1階級が84.1%、第5階級が93.6%となっており、第3階級を除くすべての階級で90%以上となっている。住宅・土地以外の負債及び月賦・年賦の割合は年間収入が低い階級ほどおおむね高くなっており、住宅・土地以外の負債は第1階級が8.8%、第5階級が4.6%、月賦・年賦は第1階級が7.1%、第5階級が1.9%となっている。

表7 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高の推移（勤労者世帯）

年次	平均	第1階級 (1)	第2階級	第3階級	第4階級	第5階級 (2)	年間収入 階級間格差 (2)/(1)
貯蓄現在高（万円）							
平成14年	1280	631	919	1201	1477	2170	3.4
平成15年	1292	678	901	1109	1546	2225	3.3
対前年増減率（%）	0.9	7.4	-2.0	-7.7	4.7	2.5	-
負債現在高（万円）							
平成14年	607	246	473	637	788	893	3.6
平成15年	605	239	497	639	814	833	3.5
対前年増減率（%）	-0.3	-2.8	5.1	0.3	3.3	-6.7	-

表8 年間収入五分位階級，貯蓄・負債の種類別現在高（勤労者世帯）

項目	平均	第1階級	第2階級	第3階級	第4階級	第5階級
金額（万円）						
年間収入	721	348	517	662	839	1238
貯蓄現在高	1292	678	901	1109	1546	2225
金融機関	1233	669	875	1053	1463	2102
通貨性預貯金	200	120	144	178	233	327
郵便局	50	32	43	50	59	68
銀行等	150	88	101	129	174	259
定期性預貯金	548	312	389	453	649	937
郵便局	223	126	162	197	289	342
銀行等	325	185	227	256	360	595
生命保険など	383	212	285	353	457	606
有価証券	102	26	57	68	124	233
金融機関外	59	9	26	56	82	123
対前年増減率（%）						
貯蓄現在高	0.9	7.4	-2.0	-7.7	4.7	2.5
金融機関	0.7	7.6	-1.9	-8.5	4.6	2.2
通貨性預貯金	10.5	16.5	0.7	14.1	8.4	13.1
郵便局	8.7	-3.0	4.9	25.0	0.0	19.3
銀行等	11.1	25.7	-1.0	11.2	10.8	12.1
定期性預貯金	-2.1	3.7	-3.2	-11.5	6.2	-3.6
郵便局	-5.5	-0.8	-12.0	-10.0	4.3	-8.3
銀行等	0.6	6.9	4.1	-12.9	7.8	-0.5
生命保険など	-1.0	10.4	-1.7	-14.3	0.7	3.2
有価証券	6.3	-3.7	0.0	-4.2	6.0	11.5
金融機関外	5.4	0.0	-3.7	12.0	3.8	7.9
構成比（%）						
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	95.4	98.7	97.1	95.0	94.6	94.5
通貨性預貯金	15.5	17.7	16.0	16.1	15.1	14.7
郵便局	3.9	4.7	4.8	4.5	3.8	3.1
銀行等	11.6	13.0	11.2	11.6	11.3	11.6
定期性預貯金	42.4	46.0	43.2	40.8	42.0	42.1
郵便局	17.3	18.6	18.0	17.8	18.7	15.4
銀行等	25.2	27.3	25.2	23.1	23.3	26.7
生命保険など	29.6	31.3	31.6	31.8	29.6	27.2
有価証券	7.9	3.8	6.3	6.1	8.0	10.5
金融機関外	4.6	1.3	2.9	5.0	5.3	5.5
金額（万円）						
負債現在高	605	239	497	639	814	833
住宅・土地のための負債	554	201	451	584	755	780
住宅・土地以外の負債	32	21	28	32	44	38
月賦・年賦	18	17	19	23	15	16
対前年増減率（%）						
負債現在高	-0.3	-2.8	5.1	0.3	3.3	-6.7
住宅・土地のための負債	-1.4	-7.4	5.1	-1.5	2.9	-6.8
住宅・土地以外の負債	3.2	16.7	3.7	6.7	12.8	-7.3
月賦・年賦	28.6	54.5	18.8	76.9	0.0	6.7
構成比（%）						
負債現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
住宅・土地のための負債	91.6	84.1	90.7	91.4	92.8	93.6
住宅・土地以外の負債	5.3	8.8	5.6	5.0	5.4	4.6
月賦・年賦	3.0	7.1	3.8	3.6	1.8	1.9

図5 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（勤労者世帯）

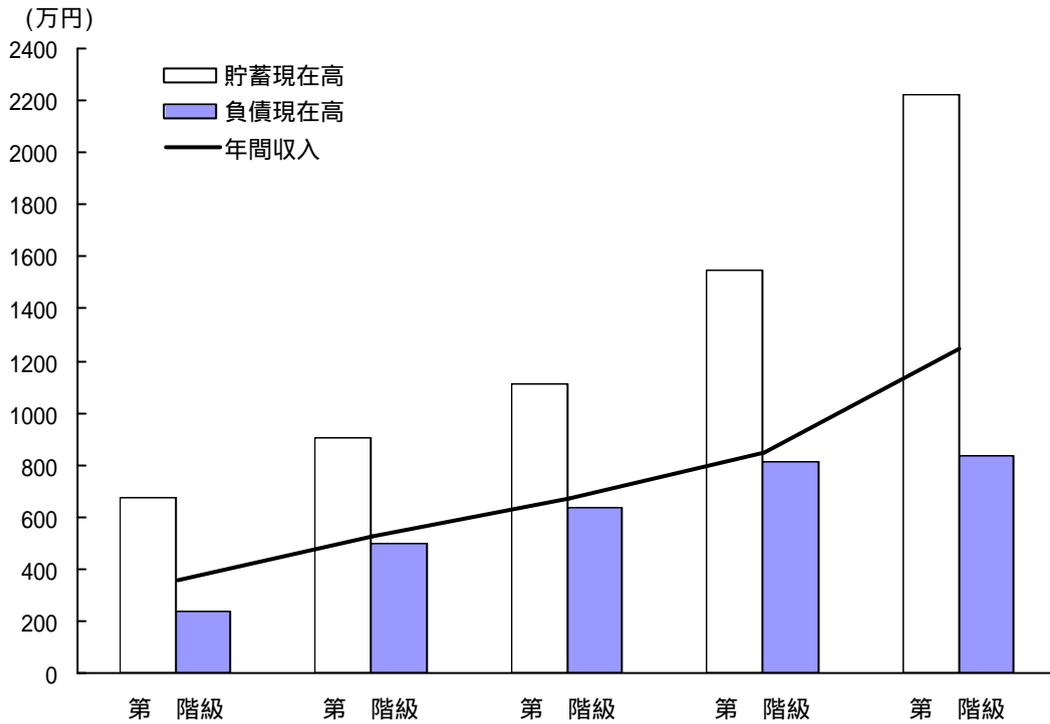
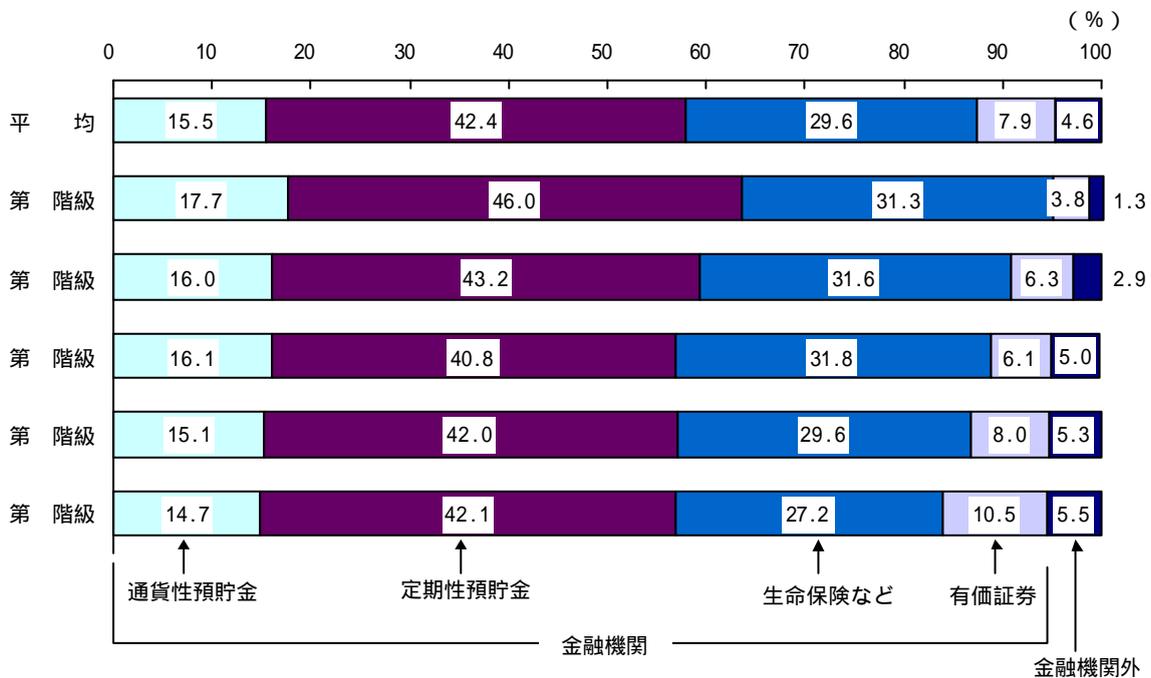


図6 年間収入五分位階級，貯蓄の種類別現在高の構成比（勤労者世帯）



(2) 負債保有世帯のうち第 階級から第 階級で負債超過

勤労者世帯のうち負債を保有している世帯について年間収入五分位階級別に負債現在高をみると、年間収入が高くなるに従って負債現在高もおおむね多くなっており、年間収入が最も低い第 階級が728万円、第 階級が1442万円、第 階級が1435万円となっている。

純貯蓄額（貯蓄現在高 - 負債現在高）をみると、第 階級から第 階級で負債超過となっており、第 階級が344万円と超過幅が最も大きくなっている。一方、第 階級では159万円の貯蓄超過となっている。

図7 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（負債保有勤労者世帯）

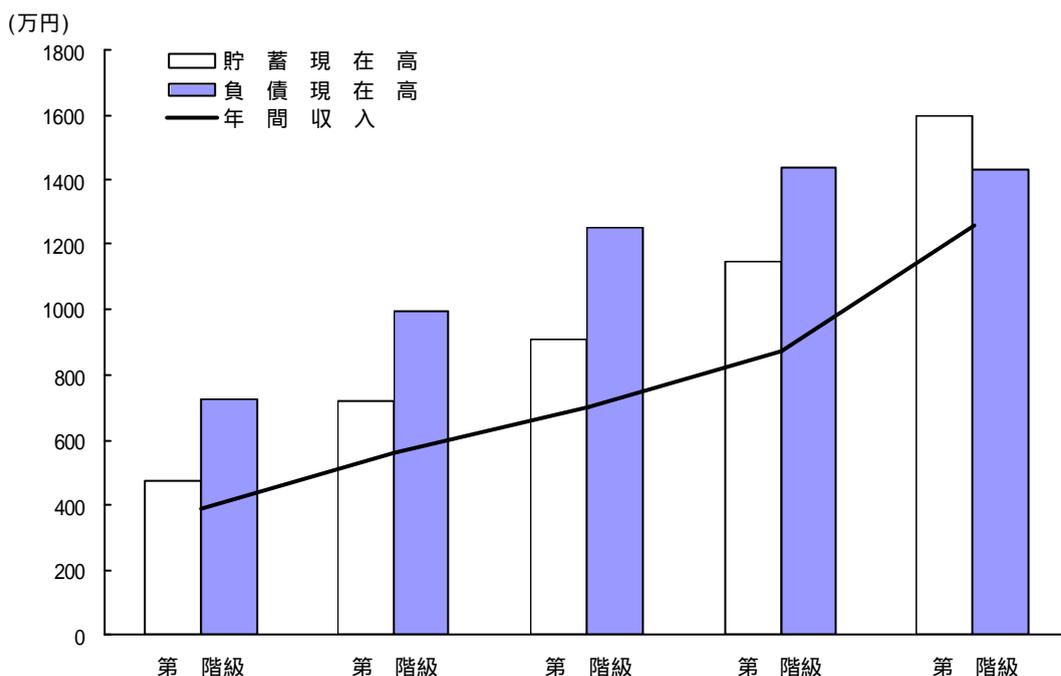


表9 年間収入五分位階級別貯蓄・負債現在高（負債保有勤労者世帯）

年次	(万円)					
	平均	第 階級				
年間収入						
平成 14 年	799	393	583	738	925	1355
平成 15 年	757	388	560	702	875	1259
対前年増減率 (%)	-5.3	-1.3	-3.9	-4.9	-5.4	-7.1
貯蓄現在高						
平成 14 年	969	515	728	923	1101	1578
平成 15 年	970	479	722	907	1149	1594
対前年増減率 (%)	0.1	-7.0	-0.8	-1.7	4.4	1.0
負債現在高						
平成 14 年	1164	674	1106	1238	1352	1448
平成 15 年	1171	728	997	1251	1442	1435
対前年増減率 (%)	0.6	8.0	-9.9	1.1	6.7	-0.9
純貯蓄額(貯蓄 - 負債)						
平成 14 年	-195	-159	-378	-315	-251	130
平成 15 年	-201	-249	-275	-344	-293	159